

開催日: 4月20~22日 開催場所: 鈴鹿サーキット 格式: 国内 主催: GSS[クラブ登録No.公認13013]、SMSC[クラブ登録No.公認24001]、(株)モビリティランド[団体登録No.公認24001]

フォト/吉見幸夫 レポート/JAFスポーツ編集部

# 死角なし。3年めの坪井翔選手が磐石の開幕2連勝



F3・3年めで悲願のチャンピオンを狙う坪井翔選手が開幕2連勝と順当なスタートを切った。

**2**018年の全日本F3選手権はスーパーフォーミュラと併催する形で4月21日、鈴鹿サーキットで開幕した。今年のF3は8大会、全19戦が組まれる。岡山、もてぎ、SUGOの3大会は2日間で3戦、決勝を行い、最終大会富士はWECに併催されるというスケジュールだ。

開幕戦のグリッドに集ったのは15台。昨年のチャンピオン、高星明誠選手が勝ち取ったB-MAX RACINGの栄光の1番を受け継いだのは国内フォーミュラ初参戦となる金丸悠選手。昨年、FIA-F4王座を最後まで争った笹原

右京選手はスリーバンドからデビューした。

笹原選手のチームメイトだった大湯都史樹選手は戸田レーシングに加入し、F3・3年目となる阪口晴南選手とコンビを組む。そしてチャンピオン奪回に燃えるトムスは昨年と同じ坪井翔、宮田莉朋両選手の布陣を敷く。

公式予選が始まると、開幕前のテストで好調をアピールしたトムス勢の速さが、鈴鹿でもしっかりと再現される。第1戦はまず宮田選手がポールポジションを獲得。セカンドベストでグリッドを決める第2戦は坪井選手がPPを奪った。3番手にはともに阪口選手が付けるが、ト

ップ2台にはやや水を掛けられた形だ。

22日朝に行なわれた第1戦決勝はスタートで遅れた宮田選手をかわした坪井選手がホールショット。2台は付かず離れずのレースを展開するが、坪井選手が0.728秒差で宮田選手を振り切って優勝。3位は阪口選手が入り、笹原選手が4位に続いた。

夕日傾く中、行われた第2戦決勝でも坪井



**6**2戦とも表彰台は(左から)宮田、坪井、阪口と同じ顔ぶれに。阪口選手の右はF3-Nにエントリーしたジェイク・パーソンズ選手。**7**戸田レーシングからのデビュー戦を連続3位で終えた阪口選手。打倒トムスの一番手となりそうだ。

選手は宮田選手に隙を与えない完璧なレース運びを見せて1.4秒差で逃げ切って2連勝。再びファステストを奪ってフルポイントとなる12点を加算した。阪口選手が連続表彰台となる3位に入り、4位にはメルセデスエンジンユーザーの片山義章選手が自己最上位となる4位をゲットした。



**1**昨年、高星選手がチャンピオンに輝いたB-MAXは開幕直前、欧州のフォーミュラを戦っていた金丸悠選手の起用を発表。2戦連続で5位に入賞した。**2**片山義章選手は第2戦で自己最上位の4位に入賞。**3**笹原右京選手は第1戦で4位を獲得。**4**ブルーノ・カルネイロ選手は2戦続けて6位に食い込んだ。**5**F3.2年めの宮田選手。第1戦はPPを奪うが、2戦連続で2位に甘んじた。